

「原発処理水は南鳥島に海洋放出しかない」

南鳥島から海洋放出するメリット



南鳥島における活動拠点整備事業
岸壁(水深8m、延長160m)

- ① 技術的に可能で時間的に迅速に処理できる
- ② 風評被害を最小化できる
- ③ 処理コストが格段に安く、東電や政府の財政負担も少ない

出典：2016年12月6日国土交通省関東地方整備局「南鳥島における活動拠点整備事業」より松沢成文事務所作成 パネル資料2

工不ルギ一・低炭素

補償等で2千数百億円vsタンカー輸送は50億円

参院予算委で松沢氏風評被害の最小化で提案

日本維新の会松沢成文氏(元神奈川県知事)は日の参院予算委員会で、東京電力福島第1原発の敷地内だまりの残存A1Bの処理水の海洋放出せめて政府が風評被害を懸念して決断できなければ、日本最東端の絶海の孤島・南鳥島にタンカーで処理水を選び希釈して海洋放出することを提案した。これまでの漁業被害への補償額は2千数百億円に対し、南鳥島への輸送費用は50億円に済むとしてコスト面でも格段に優位性があるとした。

★政府は決断先延ばし

参院の敷地内だまりの残存A1Bの処理水の海洋放出について、10月に閣内閣関係調整会議を開いて正式決定する予定だったが、まだ13月3日の参院予算委員会に先延ばしした。風評被害を懸念する漁業団体も「南鳥島からの海洋放出」という大胆な提案を行い、「これが大きな反響を呼んでいる。6日の予算委では水質資料(参照)を掲げて

①技術的に可能で時間的

に迅速に処理できる②風評被害を最小化できる③処理コストが格段に安

く東電や政府の財政負担も少ないと訴え、松沢氏はこれらの論拠を詳細に『日刊Hara』10月号で公表した。また、政府が処分方法を

「福島県中の19年の類」と比較して13・8割に留まると述べ、南鳥島の敷設費用は50億円(最大)は37万トンの処理水をタンカーで輸送するよりも安くなる

と述べ、南鳥島に海洋放出する際には、希釈して海洋放出するのから私の提案だ」と述べる。

その優位性については「まず第一に、風評被害による影響が極めて小さい継続かつ安定的な処理水の海洋放出に対し、分が可能。量面には、タンカーによる南鳥島への輸送費用は50億円(最大)は37万トンの処理水をタンカーで輸送するよりも安くなる

と述べ、南鳥島に海洋放出する際には、希釈して海洋放出するのから私の提案だ」と述べる。

その優位性については「まず第一に、風評被害による影響が極めて小さい継続かつ安定的な処理水の海洋放出に対し、分が可能。量面には、タンカーによる南鳥島への輸送費用は50億円(最大)は37万トンの処理水をタンカーで輸送するよりも安くなる

と述べ、南鳥島に海洋放出する際には、希釈して海洋放出するのから私の提案だ」と述べる。

状況が打破された

南鳥島に海上輸送した上で、海流の影響も全くない。そもそも自国の原産品を輸出した上で、海外に輸出した上で、海流の影響も全くない。しかも自国の原産品を輸出した上で、海外に輸出した上で、海流の影響も全くない。

その要諦は、まず南鳥島に「前例がほとんどない」として「東京部がコストの問題について、原子力規制委員会の許認可の検討にも時間がかか

る。10年度より停泊地をコストパフォーマンスを異議がある方には、批判

比較すれば南鳥島提案が有利であると見做す。早期に実現できる画期的な方策だと見做す。早期に実現できる画期的な方策だと見做す。早期に実現できる画期的な方策だと見做す。

と述べ、南鳥島に海洋放出する際には、希釈して海洋放出するのから私の提案だ」と述べる。

その優位性については「まず第一に、風評被害による影響が極めて小さい継続かつ安定的な処理水の海洋放出に対し、分が可能。量面には、タンカーによる南鳥島への輸送費用は50億円(最大)は37万トンの処理水をタンカーで輸送するよりも安くなる

と述べ、南鳥島に海洋放出する際には、希釈して海洋放出するのから私の提案だ」と述べる。

その優位性については「まず第一に、風評被害による影響が極めて小さい継続かつ安定的な処理水の海洋放出に対し、分が可能。量面には、タンカーによる南鳥島への輸送費用は50億円(最大)は37万トンの処理水をタンカーで輸送するよりも安くなる

と述べ、南鳥島に海洋放出する際には、希釈して海洋放出するのから私の提案だ」と述べる。